



**IMPACT  
ACADEMY**  
*For Companies*  
**REPORT**  
Vol.3



スタートアップアカデミーから生まれた、未来を変えていく人の物語



**EARTH COMPANY**  
2026



# 小さな個人の変容が、 やがて組織や社会を 変えていく

地球環境と社会構造が根底から揺らぐ今、企業に求められるのは「問いを持ち、未知を切り拓ける人財」へのシフトです。しかし本質的な変容は、知識やノウハウを学ぶ従来の研修だけでは育ちません。価値観が揺さぶられる体験と、使命を持って生きる人々との出会いからしか、生まれないものがあります。

「180度は変わっていないけど、少し角度がついた」—これは私たちの研修を受講した方の言葉です。その角度が、まずは日常生活の買い物の選択を変え、マネジメントを変え、仕事の意味を変えていく。やらされる義務感ではなく、「楽しい感覚」として。

こうした変容が生まれるからこそ、サステナブルの先にある「リジェネラティブ(再生的)」なあり方を、自社の理念や事業を通じて実現しようとする企業が、理念の浸透と人材育成の実践の場として、私たちの研修を選んでくださっています。

小さな角度の変化が積み重なり、組織と社会の再生へとつながっていく—それがEarth Companyの信じる、変容の力です。



## Earth Companyの研修の 特徴

### 私たち自身が「実践者」だからこそ 伝えられる学びがあります

Earth Companyは

社会課題解決に人生をかけるチェンジメーカーを支援し  
次世代につなぐ未来の一例として人々、社会、環境がよくなる  
循環型の仕組みを具現化しB Corpを取得した

Mana Earthly Paradiseをバリ島で運営しています。

私たちは次世代につなぐ未来を目指し

社会課題解決に取り組む最前線からリアルな学びを届けています。



累計研修実施数

81本



累計企業研修参加者数

2419名

### 形式知の時代に、身体知を取り戻す

2025年始めに、世界的に著名な経営学者の野中郁次郎氏が亡くなりました。野中氏のレガシーの一つである知識創造プロセス「SECIモデル」では、形式知と暗黙知を提唱しています。私は、後者の「暗黙知」をリジェネレーションの文脈で捉え直す「身体知」だと思っています。リジェネレーションのエッセンスを知識や枠組みで理解する「形式知」だけではなく、感覚、感情、感性を通じて体で体得する「身体知」。

今までSDGsやサステナビリティの文脈では、「形式知」が最優先され、「身体知」が残念ながら見落とされがちでした。その結果、頭でっかちのサステナが主流となってしまいました。

しかし本来、自然を壊し、社会に課題を生み出したと思う人間はほとんどいません。た

だ、その感覚を忘れてしまっている。振り子をして「身体知」の方に戻すとは、難しいことを新たに学ぶのではなく、すでに自分の中にある感覚を思い出すことだと思います。

まさにこのような体験を、インパクトアカデミーでは企業人や経営者の方々に届け、「人間性の回復」を目指しております。それによって自らの事業をよりリジェネラティブな形にシフトしていく事例が数多く現れており、本レポートではその一部を紹介させていただきます。

最高探究責任者

濱川知宏



意識と行動の変容をもたらす

# Earth Companyの

# ラーニングデザイン

Earth Companyのラーニングデザインは、  
すべての研修において個人の内なる変容(インナートランスフォーメーション)を起点に、  
組織・事業・社会へと波及する変容の連鎖を見通した設計になっています。変容の現れ方は人それぞれです。  
翌日から行動が変わる人もいれば、半年後にふと「あのときの学びだ」と気づく人もいます。  
しかしどんな形であれ、心に植えられた種は確かにそこにあり、その人のタイミングで芽を出していきます。  
一人の変容が、周囲との関わり方を変え、チームを変え、事業を変え、やがて社会を動かしていく。  
その連鎖を信じ、問いを育てる学びを届けています。

## 個人の変容

### 自分はどうありたいか、を問う

正解を教えるのではなく、価値観が揺さぶられる体験で、「自分はどうありたいか」という内なる問いを呼び覚まします。生き方と仕事が一本の線につながって生まれる気づきが、変容の種となります。

## 業務・組織・事業の変容

### 人が変わると、組織が変わり始める

個人が変わると、周囲との関わり方も変わっていきます。問いが変わり、対話が生まれ、チームの空気が変わる。それが組織の文化を変え、業務を変え、マネジメントを変えていきます。

## 社会の変容

### 一人から始まり、社会へと広がる

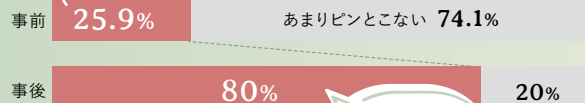
個人の変容が組織を変え、組織が事業の意味を問い直したとき、企業は製品やサービス、働く人々を通じて、社会を動かす存在へと変わります。私たちはその連鎖を信じ、学びを届けています。

Inside out 中から外へ

## Q 世界の社会課題や環境問題と自分のつながりについてどう思いますか？

【回答数】n=305(海外研修参加者へのアンケート結果より)

つながりを実感していて、  
自分の行動は社会にとって重要であると感じている



54.1%  
増加!

### 「同じ想いの仲間がいる」それが社内を動かす力に

大塚紀歩さん(大手総合飲料メーカー勤務)

参加を通じて、「同じ想いを持つ仲間がいる」と気づき、秘めていたサステナビリティへの想いに自信を取り戻しました。  
個人としても企業に所属する一社員としても、自信をもって課題を提案し、行動を起こせるようになり、長年課題と感じていた食品ロスにつながる商習慣の改善を社内で提起。現在は複数の部署を巻き込んだプロジェクトとして推進しています。



研修でどんな変化が起きた？ <その後の物語>

## 「利益か貢献か」のモヤモヤを超える。 6ヶ月で学ぶ、思考と感情、 両軸の「リジェネラティブ」

RFCは、人と自然が共に繁栄する未来のあり方「リジェネレーション」をテーマに、多様な人々が学び合うオンライン講座。環境問題や社会課題の背景にある構造を理解しながら、自分の仕事や暮らしとどうつながるのかを考え、これからの選択や行動のヒントを探ります。2022年1月にスタートし、今までに235名の方々にご参加いただいています！

Phase 1  
初めましての会  
(Day 1)

Phase 2  
自分と社会の繋がりを考える  
(Day 2-4)

Phase 3  
組織と社会の繋がりとあり方を考える  
(Day 5-7)

Phase 4  
リジェネレーション宣言  
(今後のアクションプランの個人発表)  
(Day 8)

Phase 5  
3ヶ月後の振り返り  
(Day 9)

Earth Companyでの学びの後、様々な場面で生まれる、  
価値観や日々の選択、仕事の進め方などの小さな変化の数々。

今回は **公開講座「Regenerative Futures Camp(以下RFC)」** に第5期から参加して下さっている  
たきコーポレーションIGIの皆さんの言葉を通して、研修の先に広がる物語をご紹介します。



01

### クリエイターとして向き合うリジェネレーション

井上元気さん (株式会社たきコーポレーション IGI代表) RFC第5期生

#### 見たい世界の変化に、自分になる

環境問題や気候変動について「どこか遠い世界の出来事」と感じていたと井上さん。しかしRFCで、日常の便利さや安さの裏側にある構造やトレードオフの関係を知ったことで、ものの見方が大きく変わりました。「例えば買い物をするときも、これまでは何となく安い方を選んでいました。でも、そのブランドがどんな取り組みをしているのかを知ると、多少高くても応援したいと思うように。何かを手にとったとき、その背景に少し思いを巡らせるようになりました」井上さんは、こうした変化を義務感ではなく「楽しい感覚」として受け止めました。RFCで紹介された「見たいと思う世界の変化に、あなた自身がなりなさい」という言葉が強く心に残っていると言います。

#### 新しい見方を、自分の中に持つ

RFCへの参加後、社内でも研修を企画します。理由はクリエイティブの仕事に携わる自分たちが、環境問題の現実を知らないまま情報発信をしていることに違和感を覚えたから。「実践するかどうかは個人の選択ですが、まずは知る機会を仲間へ届けたいと思いました。一番大事なのは、関心を持ち続けることだと思うのです。現実を知っていることは僕たちクリエイターにはとても重要で必要なこと。何かを考えるときに『これってリジェネの切り口で考えたらどうな

るんだろう』という新しいものの見方を自分の中に持つことになりやすから」

#### クリエイターは、社会に伝わる形に変換できる

現在は、リジェネラティブの考え方に共感する企業のブランディングの仕事に取り組んでいます。新たな企業と出会い、新たなプロセスやものの見方を通して、新しいものを形にしていく。「僕らクリエイターは、難しい概念を社会に伝わる形に変換できる存在だと思っています。リジェネラティブの考え方も、表現を通して広げていけるのではないかな。小さな取り組みかもしれませんが、そこから少しずつ変化のきっかけが生まれていけばうれしいですね」



#### 見方が変わる

「遠い世界の出来事」が「自分の選択」になる



#### 仲間へ届ける

知る機会を社内へ、チームの視点を広げる



#### 社会に変換する

リジェネの概念を、伝わる表現に変える





## 02

### 「まず知る」 その種を持っているだけでいい

桑原詩織さん（デザイナー）RFC第6期生

「自分は何もできない」と思っていた桑原さん。RFCでリジェネラティブを知った後も、暮らしの中でできることを続けていただけだったと言います。でも1年経って「今すぐでなくても、まず知っておいて、いつか何かの折に行動に移せばいい」と思えるようになったとか。インパクトヒーロー<sup>(注)</sup>の話聞いた時も「自分はあるには頑張れない」と最初思ったけれど、「彼らの強いパワーや活動を知ること、そのかけらが自分の中に入り、時間をかけてだんだんと育てくる」と理解できるようになったと言います。

このプロセスは、桑原さんがデザインをする時と似ているそう。展示会に行ったり、デザインの歴史を学んだり、何が流行っているか調べたり、そうしてインプットしたものを自分の中で噛み砕いてアウトプットする。知ることが積み重なって、自分を取り組んでいることと絡まり合い、やがてより良い何かが生み出される瞬間が来る。

「みんながちょっとずつ知ることによって起こる変化を、自分の取り組みやデザインを通して、世の中に広げていきたい。今はその試行錯誤の途中です」。

注)インパクトヒーローとは:Earth Companyが支援するアジア太平洋地域の社会起業家



#### 知ることから始める

種を持っているだけでいい。今できなくてもいい



#### 自分の中で育てる

知識が積み重なり、仕事と絡まり始める



#### デザインで広げる

小さな変化を自分の表現で世の中へ届ける



## 03

### 「地球を守る」から 「コミュニティを守る」へ

大入将太郎さん（アートディレクター）RFC第7期生

自分の中にあった「Be…どうありたいか」、それに気づいたのは、トモ（濱川知宏）さんが話してくれた「Be Do Have」の考え方を知った時です。この考え方が、自分にはすごくフィットしました。もっと知りたいと思って、RFCに参加しました。

それまで、アートディレクターとして、部長として、何をしたらいいか悩んでいました。「地球を守る」という壮大なテーマを、「自分ごと」として捉えることの難しさを感じていました。それが、RFCを通して、「地球を守る」からより身近な「コミュニティを守る」という視点に置き換えて考えられるようになり、そこから行動が変わりました。

競い合うのが当たり前だったデザインの現場は、ともすると命の削り

合いになる。でもIGIでは、仲間を称え合い、育て合うチームにしたいと思うようになったのです。スタッフと丁寧に向き合い、対話の時間を重ねました。そうやってマネジメントを変えたことで、チームが仲良くなってきました。若者が話しかけてくれるようになった。組織全体がウェルビーイングな状態に近づいていると感じています。



#### 「どうありたいか」に気づく

Be Do Haveの考え方が、自分の軸になった



#### 視点が変わる

「地球を守る」から「コミュニティを守る」へ



#### マネジメントが変わる

対話を重ね、称え合うチームへ。



## 04

### 言葉の力を磨き続け、 実践者にもなる

関根和貴さん（コピーライター）RFC第8期生

コピーライターとして働く中で、「サステナブル」や「SDGs」という言葉は、日常的に触れてきたキーワードでした。そうした中、RFCで出会った「リジェネラティブ」という言葉には、これまでとは違う手触りを感じたと関根さんは言います。単なるスローガンではなく、哲学や生き方に近い温度のある概念だと思ったそう。

自分自身の内側にある価値観や問いに気づく場だったRFC。さまざまな対話や体験を通して、自分のルーツや大切にしてきた自然との記憶を思い出し、仕事と生き方が一本の線でつながったような感覚が生まれました。「世界を良くする言葉を紡ぎ、実践者になっていく」。地域の自然に関わりながら、企業と社会、そして地球の視点をつなぐ言葉を紡いでいきたい。コピーライターとして言葉をつ

くるだけでなく、自分自身も小さくても行動する実践者でありたいと考えるようになりました。RFCへ参加することで、180度は変わってないけど少し角度がついた。何年もしたら、違うところに行くんじゃないかなと思っています」。



#### 言葉に「手触り」を感じる

哲学や生き方として捉えられる概念に出会う



#### 仕事と生き方がつながる

自分のルーツと価値観が、一本の線でつながる



#### 言葉をつくり、自ら動く

伝えるだけでなく、小さくても行動する実践者へ

# 研修プログラムのご紹介

Earth Companyの研修は、人の判断や行動の土台となる価値観・思考のOSそのものをアップデートするプロセスとして設計。知識だけでなく、参加者一人ひとりの内側から変容が起きるよう、体験・対話・内省をそれぞれに組み合わせた3つのステップで構成。気づき、深め、現場で実践する—この流れで変容が根付いていきます。

すべてカスタム設計。今の組織に必要な学びの体験を、一緒に見つけてみませんか。

研修プログラムや記事講演事業に関する  
お問合せ先

一般社団法人Earth Company  
インパクトアカデミー研修事業部

☎ 03-6403-7594

✉ academy@earthcompany.info

価値観が揺らぐ体験から気づきを得て、深めた内省から実践につなげる

## Earth Companyの学びのデザイン

### Step 1 気づき

自社の判断軸を外から見直し、  
視点を拡張する体験を通じ、  
気づきのきっかけをつくる。



#### ■ スズキクエスト

～リジェネラティブな事業探究ゲーム～  
東京湾の実例を題材にした没入型ロールプレイング研修。「海」や「スズキ」という人間以外のステークホルダーを登場人物として設定し、「自分ごと」として社会課題を捉える視点を育みます。グッドデザイン賞2025受賞。



### Step 2 内省・自社接続

Step1の気づきを自社課題に翻訳。  
トレードオン思考で自社ビジネスを  
問い直し、多元的資本・  
ステークホルダーを自社に当てはめる。



#### ■ 国内研修(対面/オンライン)

世界の社会課題や環境問題と自分の生活、事業とのつながりに気づき、未来のために何ができるかを考えます。環境配慮型施設「PICA山中湖」での宿泊研修も。



#### ■ 海外研修(バリ島)

社会課題解決の最前線やチェンジメーカーとの出会いなど、圧力的な越境体験から生まれる問いで、自分のあり方や仕事の価値を問い直します。



### Step 3 実践・定着

アクションラーニングによる実践体験、  
またはグループコーチングにより  
実践を通じて行動変容の定着化をはかる。



#### ■ Regenerative Futures Camp (RFC)

4月と9月の年2回開催される半年間の公開講座に派遣し、学びを定着。社外からの参加者との交流で、実践者のネットワークも得られます。



#### ■ 伴走支援

研修後の参加者の意識の変容や行動の変容に、グループコーチングを通じてアドバイス/コンサルティングを提供します。